

2025 年度事業報告

国際観光における動向

2025 年の国際観光客到着数（宿泊を伴う訪問者数）は、世界中のデスティネーションが堅調な実績を示したことを受け、前年比 4%増となった。この回復は、旺盛な旅行需要や主要送客市場の好調、アジア・太平洋地域における回復の進展に加え、航空路線の拡大やビザ手続きの円滑化によって支えられている。

最新の UN Tourism の観光信頼指数調査によれば、観光関係者の多くが 2026 年の見通しについて前向きな評価を示しており、国際観光は今後も成長が見込まれている。

一方で、地政学的緊張や紛争に伴う不確実性は依然として高く、経済情勢や旅行費用の高騰とあわせて、2026 年の観光における主要なリスク要因となっている。

以上のような観光を取り巻く現状を踏まえ、世界観光機関（UN Tourism）アジア太平洋地域事務所（以下「RSOAP」という。）は、アジア太平洋地域の加盟国・地域、賛助加盟員等のニーズに応えつつ、同地域においてより強靱で持続可能な観光を推進するために、その役割を着実に果たすことが期待されている。

更に、アジア太平洋地域におけるガバナンスの強化等のため、RSOAP の組織のあり方について UN Tourism 本部と日本政府との間で調整が重ねられ、RSOAP を UN Tourism が直接運営する事務所とすることが合意され、その準備が行われているところである。

活動概要

当財団は、1995 年に RSOAP の活動支援を主たる目的として設立され、一般財団法人としての組織運営の透明性・健全性の確保に留意しつつ、賛助会員の協力を得て、RSOAP の運営に関して人的及び財政的な支援を行ってきた。2025 年度においても、RSOAP に対する支援の効果を高めるべく、RSOAP が UN Tourism 加盟国のニーズに応えるために行う取組や、UN Tourism のイニシアティブをアジア太平洋地域に普及促進するための取組に対して重点的に支援を実施した（具体的には、「実施事業内容」の項目参照）。

実施事業内容

第1：RSOAP が実施するアジア太平洋地域（日本国内を含む）における観光振興のための活動に対する支援

【当財団定款第4条（1）、（2）、（4）、（5）、（6）】

1 持続可能な観光促進支援事業

RSOAP が実施する、以下の持続可能な観光を促進する活動を支援した。

（1）INSTO 支援事業

マレーシア政府が UN Tourism の持続可能な観光地づくり国際ネットワーク（INSTO）への参加を検討していることを踏まえ、日本で唯一の INSTO 加盟地である岐阜県への訪問希望を受け、その調整・引率を行った。

開催時期：2025 年 4 月 23 日

場 所：岐阜県

参加人数：約 20 名

（2）モンゴル事業

2025 年度から JICA と連携して、モンゴルにおける持続可能な観光開発事業を行うこととしており、初年度は「モンゴル地方都市における持続可能な観光推進」セミナーを JICA と以下の通り開催した。

開催時期：2026 年 3 月 10 日

場 所：モンゴル・ウランバートル

参加人数：約 350 名

（3）パラオ事業

2025 年 10 月、パラオの人的資源・文化・観光・開発省メトゥール大臣と面会した際、UN Tourism と JICA が共同で開発した、「観光プロジェクトのための指標ツールキット（TIPs）」を紹介した。今後、このツールキットの SDGs の 17 ゴール別に掲載されている指標が、パラオにおける観光プロジェクトの企画やモニタリング段階で活用されるよう、フォロー予定。

2 観光分野のレジリエンス促進支援事業

RSOAP が実施する、以下の観光レジリエンスに関する活動を支援した。

(1) 太平洋島嶼国事業

フィジー観光航空省が主催する「Fiji Tourism Convention」に当財団職員をパネリストとして派遣し、観光レジリエンス関係のセッションで海外の先進事例を紹介した。

開催時期：2026 年 1 月 22 日

場 所：フィジー・ナンディ

参加人数：約 250 名

(2) 観光レジリエンス実務者会合及び観光レジリエンスシンポジウムへの協力

「観光レジリエンスサミット」（2024 年 11 月）において採択された「仙台声明」に基づく取組の実効性を高めるとともに、アジア・太平洋地域における連携を一層強化するため、観光庁主催で「観光レジリエンス実務者級会合」がオンライン開催され、当財団は本会合の運営準備支援や、RSOAP の発表（全体総括）の支援を行った。また、観光庁主催の「観光レジリエンスシンポジウム」（2025 年 3 月開催/オンライン配信）における、RSOAP の取組の発表の支援を行った。

(3) 観光レジリエンスに関する優良事例集等の作成

観光危機管理に関する加盟国政府・自治体・DMO・民間企業の意識を高め、具体的な行動を促進するため、優良事例集等を作成することを目的とし、国内外政府・自治体・DMO・民間企業における観光レジリエンスの向上に資する調査の一環として、インドネシア、タイ、フィリピンおよび太平洋諸島におけるインタビューの準備を行い、2026 年度中の発行を目指すこととした。

3 観光の競争力強化と地域経済への貢献

(1) UN Tourism ベスト・ツーリズム・ビレッジを活用した地域の取組の推進

日本国内のベスト・ツーリズム・ビレッジ※に認定された地域間の連携を図り、情報共有及び相互啓発を行うとともに、持続可能な観光の取組の深化に資する活動を行うことにより、日本国内のベスト・ツーリズム・ビレッジの観光の質及びブランド力の向上につなげるべく、「日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会」が 2024 年 11 月に設立された。第 2 回目の日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会総会は北海道ニセコ町で開催し、総会に併せてシンポジウムも開催した。

開催時期：2025 年 11 月 11 日～12 日

場 所：北海道ニセコ町

参加人数：166 名（現地：97 名、オンライン：69 名）（シンポジウム）

※ベスト・ツーリズム・ビレッジは、2021 年に開始された、地域社会に根差した価値観、商品、ライフスタイルを維持・促進し、経済、社会、環境のあらゆる側面において持続可能性に取り組んでいる農漁村観光地の優れた例を表彰する取組。国内からは 2021 年度に北海道ニセコ町と京都府美山町、2023 年度に北海道美瑛町、宮城県奥松島、長野県白馬村、岐阜県白川村、2024 年度に山形県西川町、鹿児島県天城町が選出され、2025 年度に和歌山県高野町、香川県小豆島町、小豆島土庄町、奈良県明日香村（明日香村はアップグレードプログラムからの昇格）が BTV に選定され、合計 12 地域となった。

(2) ツーリズム EXPO ジャパン 2025 セミナーUN Tourism アジア太平洋地域事務所長 就任特別企画の開催

「ツーリズム EXPO ジャパン 2025」にて、観光庁と RSOAP の共催の「ネット配信時代のコンテンツ・ツーリズム」に関するセミナー」の開催支援を行った。当該セミナーでは、今後の RSOAP の取組の発表やコンテンツツーリズムについてのパネルディスカッションが行われた。

開催時期：2025 年 9 月 26 日

場 所：愛知県

参加人数：80 名

4 学術的調査・研究支援事業

RSOAP が実施する、以下の観光統計等の翻訳や観光に関する調査等を支援した。

(1) UN Tourism の観光統計や出版物の日本語訳の作成

UN Tourism が公表している観光統計（World Tourism Barometer）を日本語に翻訳し、RSOAP のウェブサイトで公表した。また、2025 年は出版物のうち「文化的親和性とスクリーンツーリズム—インターネット・エンターテインメント・サービス (IES) の事例」を日本語版に翻訳して公表した。

5 UN Tourism 及び UN Tourism 関連国際会議等への参加・運営支援

UN Tourism 又は RSOAP に関連する以下の国際会議等の企画・運営への参画を支援した。

- ① UN Tourism at Japan Expo 2025：女性の起業家精神と観光イノベーション・フォーラム、グローバル観光投資フォーラム：未来に向けた文化の共創

開催期間：2025 年 4 月 28 日～29 日

場 所：大阪・関西万博

② 第37回 UN Tourism 東アジア太平洋地域及び南アジア地域合同委員会

UN Tourism の事務局及び賛助加盟員の活動報告、課題、今後の活動方針等が加盟国により議論されるものであり、RSOAP から活動報告を行った。

開催期間：2025 年 4 月 15 日～16 日

場 所：インドネシア・ジャカルタ

③ ワールド・ツーリズム・デイ (World Tourism Day)

開催期間：2025 年 9 月 27 日～29 日

場 所：マレーシア・マラッカ

④ ツーリズム EXPO ジャパン

開催期間：2025 年 9 月 25 日～28 日

場 所：愛知県 (Aichi Sky Expo)

⑤ UN Tourism アジア太平洋エグゼクティブトレーニングプログラム

開催期間：2025 年 5 月 19 日～22 日

場 所：モンゴル・ウランバートル

⑥ 第3回ベスト・ツーリズム・ビレッジ年次会合

(Third Annual Meeting of Best Tourism Villages)

ベスト・ツーリズム・ビレッジの地域的な活動の優良事例として、日本版ベスト・ツーリズム・ビレッジ連携協議会（前述）が紹介されることとなり、日本を代表して美山からプレゼンテーションを行った。

開催期間：2025 年 10 月 17 日～18 日

場 所：中国・湖州市

6 UN Tourism 及び RSOAP の情報発信等支援事業

RSOAP が実施する、以下の情報発信等のための取組を支援した。

(1) UN Tourism の取組の周知

国内外の会議、セミナー、シンポジウムにおいて、講演等を通じ、UN Tourism や RSOAP の活動、持続可能な観光の重要性等について情報発信した。

- ① 「持続可能な観光：生産的な未来の構築」及び「マレーシアの持続可能な観光への投資：投資機会とその影響」セミナー

開催日時：2025 年 4 月 24 日

場 所：大阪関西万博・マレーシアパビリオン

主 催：マレーシア政府・UNDP マレーシア

② 2025 Training Programme for UN Tourism INSTO in China

開催期間：2025 年 7 月 19 日

場 所：中国・雲南省

主 催：中国 中山大学

③ 日 ASEAN サステナブル観光ベストプラクティスセミナー

開催期間：2026 年 2 月 24 日

場 所：フィリピン・マニラ

主 催：日 ASEAN センター・フィリピン観光省

④ ASEM meeting (Japan - Vietnam Tourism Seminar in Hanoi)

開催期間：2026 年 3 月 24 日

場 所：ベトナム・ハノイ

主 催：日本政府外務省

(2) RSOAP のウェブサイト等を通じた情報発信の強化

発信内容を精査しつつ、UN Tourism 及び UN Tourism 賛助加盟員の取組を情報発信した。

第 2：地方公共団体等が行う観光交流促進に資する活動に対する支援

【当財団定款第 4 条（3）、（7）】

1 国際人材育成支援事業

高等学校・大学、国際団体における講義・講演への当財団職員の派遣や、UN Tourism 出版物の翻訳機会の創出により、若年層の UN Tourism の活動や持続可能な観光に関する理解の増進を図るとともに、国際感覚の涵養及びキャリア形成を支援した。

第 3：賛助会員に対する取組【当財団定款第 4 条（7）】

1 APTEC ウェブサイト等を通じた情報発信

当財団のウェブサイトを通じて、賛助会員に向けた当財団の活動や当財団賛助会員の観光関連事業の情報発信を適時適切に行った。

以 上